

～今、市民の森では！～



作成:NPO 法人 八ヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会  
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shinrin\_bunka@yahoo.co.jp)  
掲示許可:茅野市 環境課 環境保全係

メンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。

お問い合わせは 75-1772.

昆虫も沢山掲載

茅野市 市民の森ガイドブック2「森を楽しむ」は、2017年3月に発行し、只今、300円で販売中。  
《取扱所》 茅野市尖石縄文考古館 売店  
茅野市北山 カフェ 午後の森  
《問合せ》 NPO 法人 八ヶ岳森林文化の会  
☎: 0266- 75-1772

記号の説明:  
①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照  
②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

**今年最後のフィールド観察 (悦)**  
今年最後の観察会のコースは、第一駐車場→山頂コース→野鳥の小径→池(昼食)→南コース→沢沿いの小径→第一駐車場にしました。  
通常、第一駐車場からの山頂コースは、疲れた帰りに利用することが多く、余り丹念に観ることが少ないので、今回は疲れていないうちに、じっくり観察しました。  
トイレの手前ではシロノハイロシメジの菌輪(キノコが環状に生える)というそうです。  
野鳥の小径では、9月にスミナガシの幼虫が沢山いたアワブキの付近で、全員一列に並んで、蛹探しをしましたが見つめることはできませんでした。しかし、南コースではオオムラサキの幼虫には会うことができました。  
調査のため池に仕掛けた魚取網には、魚1匹、サワガニ、ゲンゴロウが入っていました。魚は漁業協同組合で同定をしてもらう予定です。  
とても寒い一日で、各自暖かいと思うところで昼食を食べ、早めに帰路につきました。



WEB図鑑を作りました。  
花の色、開花月、花の名前で検索できます。  
この地域での、散歩などに、活用ください。

<https://8moribunka.sakura.ne.jp/shiminmoriguide/>

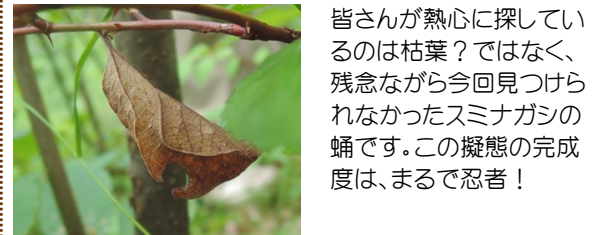
茅野市 市民の森  
いきものガイド  
NPO法人 八ヶ岳森林文化の会

**キノコと魚 (吉)**  
●今年もキノコ美味しくいただいています。

●市民の池に仕掛けた網に、魚とサワガニとゲンゴロウが捕れて良かったです。サワガニとゲンゴロウは池に戻し、魚は漁業組合が 11:30 で終了していたので、水産試験場で名前を確認しました。写真はボケてしまいましたがアブラハヤでした。

アブラハヤ  
コイ科ウグイ亜科に属する淡水魚。体表のヌメリが強いことからアブラの名があるそうです。大昔に天ぷらで食べたら美味しかったです。

スミナガシは忍者? (矢)



皆さんが熱心に探しているのは枯葉?ではなく、残念ながら今回見つけれなかったスミナガシの蛹です。この擬態の完成度は、まるで忍者!

↑2016年(馬)が見つつけてくれた蛹(付)スミナガシの蛹はまるで枯葉のようですが、蛹だけでなく幼虫の擬態も見事です。葉っぱをちぎりぶら下げ、自分もぶら下がると、どれが葉っぱか幼虫か?見事な自己防衛には脱帽である。



スミナガシ幼虫(どこにいる?) スミナガシ成虫

また来春に (SU) 写真(悦)

チュクチュクと賑やかな小鳥たちのおしゃべりに梢を見上げたら、いるいる! おしゃべりの主はエナガの群れ。こちらの枝先からあちらの枝先へ、さらに向こうの木へと、おしゃべりしながら元気に飛び交っていました。かれらに出会えるこの季節の森は、樹木も虫たちも、厳しい冬への対策と同時に来春への準備を静かに始めているようです。  
枯葉と見まがうスミナガシの蛹には出会えなかったけれど、きっと、どこかに隠れているのでしょう。  
1枚の落ち葉に3匹集まっていたオオムラサキの幼虫たちには、来年まで仲良く元気であるんだよ、と声かけして別れてきました。



11月観察した植物

- <花>  
 ☀ ヒメジョオン②86  
 ☀ ハナタデ②96  
 🌸 ノコンギク①110  
 🌸 ツクバトリカブト①113  
 <果実>  
 🍎 ツノハシバミ①67  
 🍎 アブラチャン①66  
 🍎 ダンコウバイ①66  
 🍎 ウリハダカエデ①68  
 🍎 カラコギカエデ①132  
 🍎 ウバユリ①97  
 🍎 ネズ②98  
 🍎 ガズミ①83  
 🍎 コバノガズミ①76  
 🍎 オトコヨウゾメ①76  
 🍎 カマツカ①136  
 🍎 ツルウメモドキ①139  
 🍎 ムラサキシキブ①93

11月観察した動物

- <蝶>  
 ● キタキチョウ②110  
 ● ミドリシジミ越冬卵  
 ● オオムラサキ越冬幼虫  
 <その他の昆虫>  
 ● ゲンゴロウ  
 <鳥>  
 ● エナガ  
 ● カワセミ  
 <その他>  
 ● アオダイショウ幼体②21 (一見マムシ)  
 ● アブラハヤ  
 ● サワガニ



菌輪 (悦) 菌輪の写真(太)



白いキノコが直径3mくらいの環状に生えていました。この現象は菌輪というそうです。このキノコはシロノハイロシメジで、毒ではないけど、くさったニラの匂いがするそうですから、食不適ですね。

キノコ会議? (矢)



キノコが円卓を囲み、まるで会議をしているように見えますが、実は仲良く食事をしているということなんですよ。ここで疑問発生。何故周辺部にのみキノコが着いているのでしょうか? 木の中心部は心材・周辺部は辺材。辺材には水と栄養分の通り道・維管束があるからか? でも、きのこが腐朽菌であるならば、そんな選好みをするのであろうか? ??? 疑問の連鎖...

今年最後の観察会(その1) (口)

●この葉っぱの上には何かがあります。



「ウスタビガの繭」です。フモトミズナラの落葉と同じように紅葉(?)していくのか、繭が葉っぱと同化して見えます。ウスタビガ(ヤマユギ科)の幼虫の食樹はコナラ、クヌギ(ブナ科)他、成虫は10,11月孵化して卵は繭に産み付ける。

●フモトミズナラをみんなで探すが、ほとんどの発見された物は根が出ているのです。



他のドングリも根が出ている物が多い。ドングリの生き残り方法だった。

「どんぐりハンドブック」文一総合出版 一部抜粋  
ドングリの発根と発芽

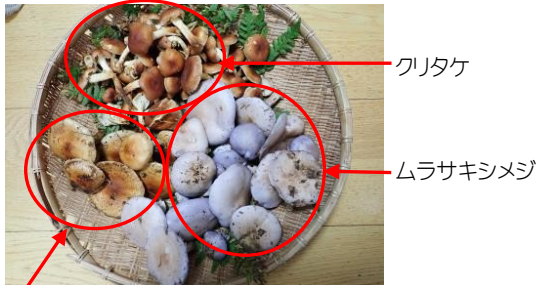
成熟して地面に落ちた落葉樹のドングリは、乾燥をまぬがれるためとりあえず根を出す。しかし、芽は休眠したままで、発芽しない。

秋、発根するメリト

子葉の栄養を根に分散して発芽のチャンスを広げる。春になったらいち早く発芽できる。ドングリの生き残り戦術に脱帽でした。

●沢山のキノコに出会いました。

気温がいつまでも高く、適度の雨が降った影響が例年よりもキノコの発生が遅かったような気がします。最後の観察会で魚籠(びく)がちょっぴり重くなりました。



クリタケ

ムラサキシメジ

チャナメツムタケ

イヌザンショウ (桂)



1人の帰り道、イヌザンショウの木を見つけました。サンショウは比較的どこでも見られますが、イヌザンショウはあまり見たことがなく、観察したいなと思っていたのでラッキーでした。



葉っぱを1枚取って来て、家のサンショウと比較してみました。左がサンショウ、右がイヌザンショウです。イヌザンショウの複葉には小さな刺があります。他にも細かい違いは沢山あるようですが、私は遠めに見た時に、すぐにイヌザンショウだとわかりました。やはり、目を慣らせば感覚でわかるのですね。嬉しい発見でした。

地衣類いろいろ (悦)

11月4日の秋の観察会で、地衣類について学びました。受講者に4種の地衣類を紹介してもらいました。



ヒメレンゲゴケ



ヒメジョウゴゴケの仲間

今年最後の観察会(その2) (口)



ヤマハンノキにミドリシジミの卵、この木には去年も卵が産み付けてありましたが、今年は幼虫の観察をこの木で出来なかったような気がしますが、他の木で6月12日に幼虫を観察しました。年一回、9ヶ月近くを卵で過ごすようです。今回はこの木で4個確認しましたが、無事に越冬して幼虫になる事を願っています。



6月12日に観察した幼虫

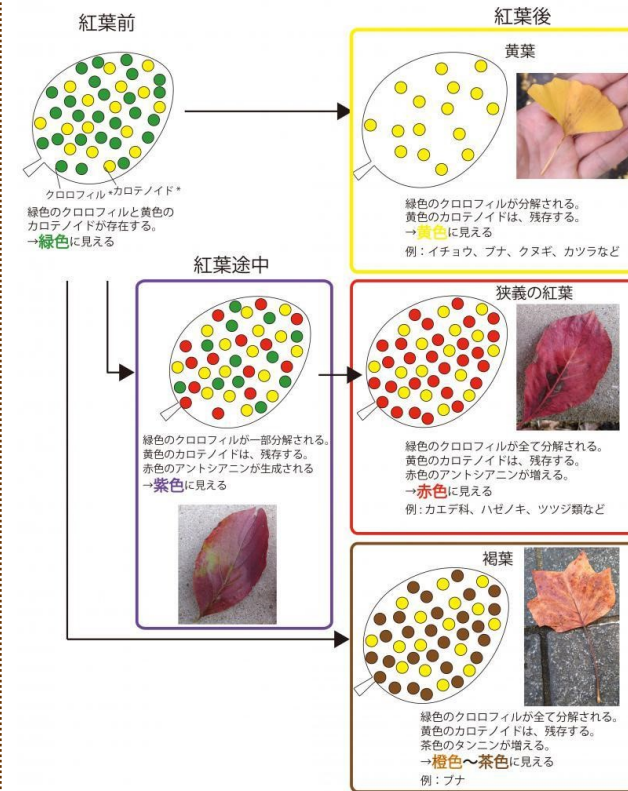
ナナフシの不思議? (悦)

池の畔で、襟に何かかとまったので、払ったら、ナナフシでした。図鑑「見つけよう信州の昆虫たち」で調べたらシラキトビナナフシらしい。



そこに、「県内は♀のみ」と書かれている??あれ? ♀だけでは困るじゃん! ネットで調べてみると、♀だけで単為生殖で子孫を増やせるそう。然も、余り飛べないナナフシは、鳥に食べられても丈夫な殻に守られた卵は糞に交じって排出され、落とされた先で孵化できるそう。鳥に食べられ、遠くに子孫を運ぶ戦略だそう。へー! 驚き。しかし、「県内に♀しかいない!」どうして分かったんだろう?

紅葉の仕組み ザックリ読んでみましょう。



\*クロロフィル、カロテノイドは、光合成に関与する色素物質で、クロロフィルは緑色、カロテノイドは黄色である。

クロロフィルの分解

木は葉っぱを落とすときに、葉っぱの中に入っている栄養がもたないで分解してリサイクルする。葉っぱの中に入っている窒素分を茎のほうに一先懸命流し込む。そのときクロロフィル(葉緑素)も分解する。

アントシアニンの生成

葉に離層ができてもしばらくは光合成が続く。葉に糖分が増すとアントシアニンが生成されやすくなる。カエデ類は糖分が増えやすい。

紅葉しない葉もある。

マメ科、ハンノキの仲間には根に根粒(こんりゅう)があって、窒素固定菌を住まわせている。ふだんは根粒菌(こんりゅうきん)に空気中の窒素から植物が体に利用できるようなアンモニアを作ってもらって、植物は光合成した炭水化物を根粒菌に与えるというギブアンドテイクな関係にある。主導権を握っているのはどちらかというとう植物。

出展:[https://biome.co.jp/biome\\_blog\\_041/](https://biome.co.jp/biome_blog_041/)